

多様な学びを支える視点 ～知的障害教育から～

1 はじめに

附属大塚特別支援学校（以下、本校）では、2003年頃から地域の各学校（幼稚園・小学校・中学校）と連携し、特別支援教育に関する巡回相談や校内研修会の協力等を行ってきました。そして2017年度には文京区と包括協定を締結し、特別支援教育に関する外部専門委員としても本校職員で分担しながら活動しています。さらに2019年度からは、研究協力校として海外日本人学校への遠隔支援コンサルテーション（受託元：文部科学省、受託先：公財海外子女教育振興財団）に取り組むなど、多機関と連携したさまざまな実践を積み重ねています。

これまでの多様な連携を通して、「知的障害教育における指導・支援や授業づくりの考え方は、特別支援教育の場に限らず、通常の学級までその知見が広く貢献できるものである」と感じるようになりました。また同時に、校種にとらわれず、私たち教員も広い視点でともに学び合うことを大切にしていきたいと思えます。

2 知的障害教育で大事にしている視点

児童生徒と同じように教員一人一人も多様です。そこにはさまざまな指導観や考え方があります。ただし、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）第4章第2節の「知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本」（以下「教育的対応の基本」）で説明されているように、知的障害教育としておさえるべき視点があります。教育的対応の基本をもとに、自分なりの指導観や考え方を整理すると、それは「具体的」「反復的」「段階的」「体験的」になるのではないかと考えています（下表）。あくまでも私なりに考えることですので、ぜひみなさんも一人一人の経験や考えを大事にしてください。

視 点	その理由
具体的	子どもにとって具体性のある題材であること。 主体的に関わることができるよう、子どもにとって身近な題材であること、また興味・関心がある題材が大切。
反復的	繰り返しの活動、経験の積み重ねが大切。 経験を通して、少しずつ積み重ねること。単純に同じことの繰り返し一辺倒ではなく、そこには常に活動の工夫や配慮がある。
段階的	スモールステップで考えることが大切。 そのためには、一人一人の実態把握が欠かせない。チェイニング [※] の視点を大切に、子どもたちが達成感を積み重ねられるようにしたい。
体験的	子どもが自分で動く、取り組むことができる学習内容であることが大切。 常に体験的活動で構成するのではなく、いつ・どこで・どのような体験的活動をするのかを明確に位置付けることが重要。

3 大切にしたい「段階的」の視点

「2」で説明した視点は、児童生徒が主体的に課題に取り組み自信を深めるためには欠かせないものです。ここでは、「段階的」について時計学習を事例に少し詳しく解説していきます。

私たち全員がそうであったように、最初から写真3の文字盤の時計から時刻を読み取ることができたわけではありません。写真1から写真2、そして写真3のように少しずつの段階的を通して「分かった」「できた」を積み重ねてきたはずです。このような段階的な取組を「スモールステップ」といいます。

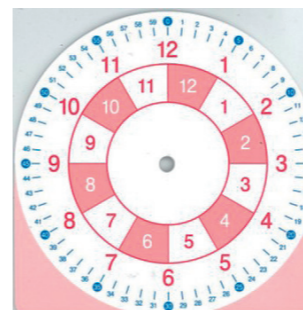


写真1

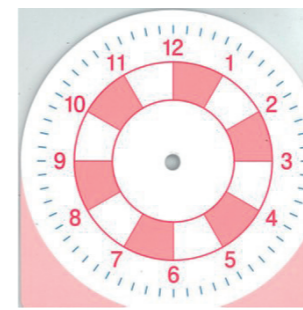


写真2

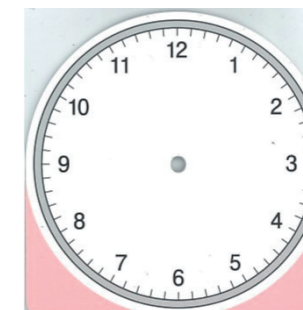


写真3

また、時計学習は実生活の中で活用しながら学ぶことが重要です。例えば掛け時計も、写真4のような読み取りやすい表示が工夫されていることで、時計が苦手な児童生徒もメモリ、数字、色などさまざまな手がかりをもとに、「〇時〇分」と読み取れる可能性が高まります。

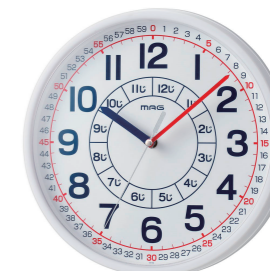


写真4 「MAG 知育時計よ〜める」(ノア精密株式会社/データベースID:567)

4 まとめ

私たち教員が指導・支援を行う際には「学習に達成感を感じ、自信を深めてほしい」「次の課題にも意欲的に取り組んでほしい」など、さまざまな思いや願いが根底にあるはず。そこでは具体的な姿につながるための視点や手だてが大切です。

これからも、児童生徒の自信や達成感をスモールステップのように少しずつでも積み重ねていくようにしたいと思います。（附属大塚特別支援学校 佐藤 義竹）

※ チェイニングとは、ある課題をスモールステップに分けて、具体的な支援とともに一つずつ丁寧に学ぶようにして、最終的に最初から最後まで自分で取り組めるようにする支援方法の一つです。

例えば、登校時「外靴を下駄箱にしまう」という課題があったとします。大まかに「①靴をぬぐ→②靴を持つ→③靴を下駄箱に入れる」という3つのステップに分けたときに、先生が「ここで靴を脱ぐよ。」などと言葉かけをして児童が靴を脱ぐようにします。その際、「よくできたね。」などのフィードバックが大切です。また次の日は「②靴を持つ」まで同じように支援をしながら、自分で取り組むようにします。そして3日目は①から③まで一連を自分で取り組む…というように、段階的にステップを増やしていくプロセスです。①から順番に行うことを「フォワードチェイニング」、③から逆順に行うことを「バックワードチェイニング」といいます。